

安全は大丈夫か！？ のぞみ号を車掌2人で乗務させる会社！

マスコミ発表した「通常運行」のために世間体を重視するのか！

3月14日、会社は新幹線のぞみ号を通常3人の車掌が乗務するところ、2人での乗務を強行しました。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被害状況もまだまだ広まる中で、東京電力からの電力供給の問題が報道されました。その震災の3日後の早朝より東京電力が計画停電を行う影響によって、JRをはじめ首都圏の各鉄道会社も運転中止や運転本数を減らす対策をすることとなりました。その結果、出勤する一般のビジネスマンをはじめ、早朝から乗務のために出勤する乗務員が出勤できない状況が発生しました。新幹線を担当する乗務員が出勤出来ないと当然、担当する列車の運行にも影響が出てきます。

会社はこの対応のために、3名の車掌乗務が確保出来ているクルーの内の1名を外して待機させ、何と2名での乗務を命じたのです。その理由に対して当日の管理者は「既にマスコミに対して、本日の東海道新幹線の通常運転を発表していたため」との理由でありました。

会社は車掌乗組みを確保しないまま、旅客の安全を無視して「世間体」を重視する対応を行ったのです。いくらマスコミに発表したと言えども「安全のために列車本数を減らす対応」がなぜ優先できないのでしょうか！？

この間、大幅な列車遅延が発生する臨時的な異常時には、列車本数を減らして列車遅延の回復を実施する対応を行ってきました。こうした努力をしないまま、2名の車掌での運行を強行することは、列車の発車・到着時だけでなく、車内で発生する異常時の対応に問題が発生します。実際、中間乗務員室での列車監視については安全を確保するために必要だと厳しく指導しています。

**会社は、「世間体」と旅客・列車の安全の
どちらを重視するのかははっきりするべきです！**

